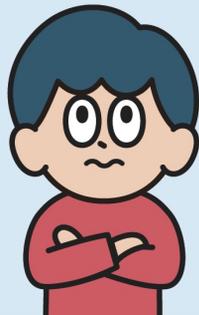


# その思い、閉じ込めないで。

たいちよう わる  
体調が悪いから、  
れんしゅう すこ あいだ  
サッカーの練習を少しの間、  
やす  
休みたい。



とも  
ケンカした友だちに、  
ホントはあやまって  
なかなお  
仲直りしたい

## 「子どもアドボカシー」で、あなたの思いを大切に。

自分の思いを伝えることは、決してわがままなことではありません。

がっこう いえ あいて わたし おも  
学校や家で「(相手に) こうしてほしいな」「(私は) もっとこうしたい!」って思  
うこと、きっとあると思います。でも、なかなかうまく伝えることができない。伝えても  
じゅうぶん き  
十分聴いてもらえない。もし、あなたがそうした理由で困ったり、悩んだりしたときは、  
まわりにいるいろんな人に思いを話してみてください。自分の思いを伝えることは、決  
してわがままなことではありません。友だちや大人はそれをしっかり受け止め、あなた  
の思いが実現するようにより良い方法を一緒に考えてくれます。



自分で言い出せないときは、だれかに言ってもらえばいいんだよ。

つぎ  
次のようなことがありました——友だちのAさんと仲直りしたいけど、どうしていいかわからなかったと  
き、別の友だちのBさんが話を聴いてくれ、一緒に先生に相談しました。先生は、Aさんと仲直りをするため  
に話し合いの場をつくりました。その結果、Aさんと仲直りすることができました。

このように、あなたの気持ちや考えを表すことで、望みをかなえていくための活動のことを「子どもアド  
ボカシー」といいます。あなたの悩みを解決するためのしくみがあり、助けてくれる人がいるから大丈夫。  
一人で悩まないで、まわりにいる人を頼ってください。

もっと知りたいあなたへ。

**Q** 自分の思いを伝えたいのにうまく話せない。だれに相談したらいいの？

**A** ●それは特別な人じゃなくて、あなたのまわりの身近な人たち。家族や近所の  
ひと がっこう せんせい  
人、学校の先生やスクールカウンセラー、とも おな けいけん  
友だちや同じ経験をした人が、あな  
たの思いを聴いて、その思いを届けたい人に伝えるお手伝いをします。「アド  
ボケイト」と言われる専門の人に相談することもできます。



**Q** アドボカシーの専門家「アドボケイト」とはどのような人なの？

**A** ●アドボカシーの専門家「アドボケイト」は、学校や親ともかかわりのない人で、あな  
たのことをいちばん かんが きて せいり  
一番に考えて気持ちを整理し、いっしょ ことば  
一緒に言葉にして、あなたの思いが伝え  
たい人に伝わるようにきょうりよく  
協力する人です。

※アドボケイトに相談したい人は、学校の先生にそのことを伝えてください。



# みなさんの思いを聴いて、届けたい人に届ける 「子どもアドボカシー」を知っていますか。



## 「子どもアドボカシー」って？

アドボカシーとは、人の気持ちや意見を聴き、権利を守る活動のことです。中でも子どもの思いをしっかり聴いて、届けたい人にその思いを届け、気持ちや意見の実現のために支援するのが「子どもアドボカシー」です。

## 「子どもアドボカシー」の担い手は誰？

『自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること』をセルフアドボカシーと言います。セルフアドボカシーが難しいときは、多くの方があなたを支えてくれます。

あなたの思いを聴き、実現をめざして支援する「子どもアドボカシー」の担い手は4つに分類されます。



### 子どもの意見を尊重する「子どもアドボカシー」の担い手

#### フォーマルアドボカシー

学校の先生やスクールカウンセラー、部活動の指導者などが子どもを支援すること。

#### インフォーマルアドボカシー

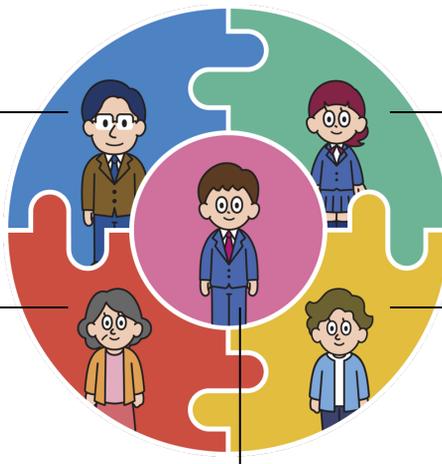
お母さんやお父さん、親戚や近所の親しい人などが子どもをサポートすること。

#### ピアアドボカシー

友だちや同じ経験をした人たちなどが、子どもに助言したり、大人につないだりすること。

#### 独立アドボカシー

子どもの立場に立って思いや意見を聴き、子どもが望む方法で必要な支援につなぐこと。



#### セルフアドボカシー

自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること。

もっと知りたいあなたへ。

## Q アドボカシーの専門家「独立アドボケイト」とは、どのような人なの？

- A
- 相談者の立場に立って、気持ちや意見を丁寧に聴き、実現できるように支援する人で、アドボカシーを実践する専門家を「独立アドボケイト」と言います。「独立」とは、学校や保護者など誰とも関わりのない（利害関係のない）人という意味です。
  - 「独立アドボケイト」は、相談者の思いを聴き、相談者がどうしたいのかを大切にしながら、どのように伝えれば良いかを一緒に考えます。相談者の希望に沿って伝えたい人に代弁することもあります。
  - 相談者から聴いたことは秘密にします。
  - 相談者自身やまわりの人の命に関わったり、心やからだを傷つけたりしていると判断したら、聴いた内容を必要な人に話すことがあります。その場合は、相談者にこのことを伝えます。

独立アドボケイトについて詳しく知りたい人、独立アドボケイトに相談したい人は、学校の先生に「アドボケイトについて知りたい」「アドボケイトと話がしたい」と伝えてください。

# 子どもたちの思いを聴いて、届けたい人に届ける 子どもアドボカシーを知っていますか。

三重県教育委員会では、子どもの権利およびアドボカシーを学ぶための動画教材「(児童用) その思い、閉じ込めないで」「(生徒用) 私には伝えたい思いがある」を制作し、三重県HPに掲載しました。

お子さまと一緒に動画教材をご覧ください、必要に応じて学校やスクールカウンセラー、独立アドボケイトにご相談いただきますようお願いいたします。



## 子どもアドボカシーとは、子どもの思いを聴いて、実現するように支援すること。

アドボカシーとは、自分の思いなどをうまく伝えられない人たちの意志や意見を聴き、思いをくみ取って周囲に働きかける活動のことを言います。

その中でも、子どもの思いをしっかり聴いて、届けたい人にその思いを届け、気持ちや意見の実現のために支援するのが子どもアドボカシーです。



## 子どもアドボカシーは、学校や児童相談所などで求められています。

いじめや児童虐待を受けた子どもたちの思いが大人に届かなかったことで、命を失ってしまう痛ましい事件が起きています。このことから、子どもが誰にも相談できないまま、思いを自分の中に閉じ込めてしまうのではなく、周囲の大人が思いを聴いて、それを実現することの重要性が認識されるようになりました。

2022年に児童福祉法が改正されて、児童相談所等に子どもの声を聴くアドボケイト等の意見表明支援員を置くことが努力目標と位置づけられました。学校においても、子どもが自分の思いを自由に表明し、それが尊重されて実現できるように、教職員やスクールカウンセラー、独立アドボケイト(子どもアドボカシーの専門家)が支援していきます。

## 「子どもの権利条約」の理念の実現を推進する子どもアドボカシー。

子どもアドボカシーの土台になっているのが、世界中の子どもたちの安心を守る「子どもの権利条約」です。世界の196の国や地域で守られているこの条約には、大事な「4つの原則」があります。

### ① 差別の禁止

すべての子どもは、平等に大切にされる権利を持っている。

### ② 子どもの最善の利益

子どもに関する決まりごとや支援について考えるとき、「その子にとって何が一番良いか」を第一に考える。

### ③ 生命・生存・発達に対する権利

すべての子どもは、命を守られながら、その子らしく育ち、成長する権利がある。

### ④ 子どもの意見の尊重

子どもは自分のことについて自由に思いを表すことができ、大人はそれを真剣に受けとめ、一緒に考えて行動する。

もっと知りたいあなたへ。

**Q** 子どもが、自分の思いを直接伝えられないときは、誰に伝えたらいいの？

**A** 『自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること』をセルフアドボカシーといいます。セルフアドボカシーが難しいときは、多くの人が子どもを支えます。子どもの思いを聴き、実現をめざして支える「子どもアドボカシー」の担い手は4つに分類されます。

### 子どもの意見を尊重する「子どもアドボカシー」の担い手

#### フォーマルアドボカシー

学校の先生やスクールカウンセラー、部活動の指導者などが子どもを支援すること。

#### ピアアドボカシー

友だちや同じ経験をした人たちなどが、子どもに助言したり、大人につないだりすること。

#### インフォーマルアドボカシー

お母さんやお父さん、親戚や近所の親しい人などが子どもをサポートすること。

#### 独立アドボカシー

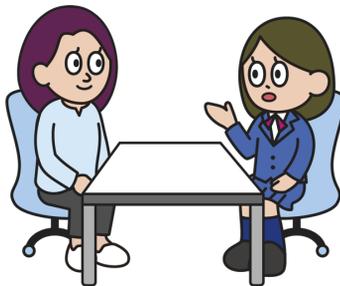
子どもの立場に立って思いや意見を聴き、子どもが望む方法に必要な支援につなぐこと。

#### セルフアドボカシー

自分の気持ちや意見を、自ら相手に伝えること。

**Q** アドボカシーの専門家「独立アドボケイト」とは、どのような人なの？

- A**
- 相談者の立場に立って、気持ちや意見を丁寧に聴き、実現できるように支援する人で、アドボカシーを実践する専門家を「独立アドボケイト」と言います。「独立」とは、学校や保護者など誰とも関わりのない（利害関係のない）人という意味です。
  - 「独立アドボケイト」は、相談者の思いを聴き、相談者がどうしたいのかを大切にしながら、どのように伝えれば良いかを一緒に考えます。相談者の希望に沿って伝えたい人に代弁することもあります。
  - 相談者から聴いたことは秘密にします。
  - 相談者自身やまわりの人の命に関わったり、心やからだを傷つけたりしていると判断したら、聴いた内容を必要な人に話すことがあります。その場合は、相談者にこのことを伝えます。



「独立アドボケイト」は、教職員やスクールカウンセラーなどの学校関係者以外で、子どもが安心して悩みを相談できる大人として、選択肢の一つとなり得ます。詳しく知りたい方は、学校までご相談ください。

# 子どもの権利と「子どもアドボカシー」を学ぶ

## 教職員用資料

三重県教育委員会では、子どもの権利や「子どもアドボカシー」について学ぶ動画教材や資料を活用し、児童生徒、教職員、保護者等が「子どもアドボカシー」の理解を深められるよう、児童、生徒、教職員向けの動画教材を制作し、三重県HPに掲載しました。

本資料は、教職員用教材の補助資料です。子どもの権利や子どもアドボカシーについて整理していただくと共に、「独立アドボカイト」が、先生やスクールカウンセラーなどの学校関係者以外で、子どもが安心して悩みを相談できる大人として選択肢の一つとなり得ることをお知りおきください。

児童生徒や保護者から「独立アドボカイト」の依頼があった場合は、三重県教育委員会生徒指導課までご相談ください。

## 1 子どもの権利について学ぶ

### 最初に確認しましょう。アドボカシーとは？

- アドボカシーという言葉の語源は、ラテン語で「声を上げる」という意味。当事者の思いを聴き、その思いを届け、気持ちや意見の実現のために支援することをいいます。
- 中でも「子どもアドボカシー」とは、子どもの思いを聴き、必要に応じてその声を届けるために支援することをいいます。子どもアドボカシーを実践する人をアドボカイトと呼びます。



### 子どもアドボカシーが注目されているのはなぜ？

- いじめや児童虐待を受けた子どもたちの思いが、大人に届かなかつたことで命を失ってしまう痛ましい事件が起きています。そのため、子どもが誰にも相談できないまま、思いを自分の中に閉じ込めてしまうのではなく、周囲の大人が思いを聴いて、それを実現することの重要性が認識されるようになりました。
- 2022年の改正児童福祉法において、児童相談所などに子どもの声を聴くアドボカイト等の意見表明支援員を置くことが努力目標と位置づけられました。学校においても、子どもが自分の気持ちや意見を表明し、学校はそれを尊重して実現できるように、支援していくことが一層求められます。
- 生徒指導提要でも、子どもの最善の利益を常に考慮しつつ、子どもが自分の思いや意見を自由に表明し、それを尊重する姿勢が示されています。

### 「子どもの権利条約」の理念実現を推進する子どもアドボカシー

- 子どもアドボカシーが求められる背景にあるのが、1989年に国連で採択され、日本も1994年に批准した「子どもの権利条約」の理念です。
- 「子どもの権利条約」は、子どもを「保護の対象」としてだけでなく、「権利を持つ一人の主体」として捉える4つの原則を大前提として作られています。

## 「子どもの権利条約」の4つの原則

### 1 差別の禁止

全ての子どもは、子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況等どんな理由でも差別されず、子どもの権利条約の定める全ての権利が保障されます。

### 2 子どもの最善の利益

子どもに関わる判断や支援は、常に「その子どもにとって何が一番良いか」を第一に考えます。



### ③ 生命・生存・発達に対する権利

全ての子どもが命が守られ、もって生まれた大切な力をその子のペースで十分に育めるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

### ④ 子どもの意見の尊重

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、大人はその意見を真剣に受け止めて十分に考慮します。

## 2 子どもアドボカシーの実践と新たな視点を学ぶ

- 子どもアドボカシーは、子どもの思いに耳を傾け、子どもの権利の実現に向けて努力する担い手によって分類されます。
- 子どもが主体的にアドボカシーを選択できるような、環境づくりが大切です。また、各アドボカシーが協力し合うことで、子どもの思いがより確かに届く場合もあります。

アドボカシーは、自ら気持ちや意見を発する「セルフアドボカシー」と、それを支える4種類のアドボカシーに分類されます。



#### ● セルフアドボカシー

子どもが自分の権利を守るために、意見や要望を述べる行為を指します。子どもが自分の意見を表明することで社会的な権利を主張し、権利を守ることができます。自分に必要な支援を受けることや、自分が望んでいない行為を受けないために、子どもに限ったことではなく全ての人が身につけておきたいコミュニケーション手段と言えます。

#### ● フォーマル※アドボカシー

学校の教職員、スクールカウンセラーや部活動の外部指導員等が子どもの相談を受けて、子どもの意見や願いの実現に向けて支援する行為を指します。社会的制度として子どもアドボカシーを行います。

※フォーマル：仕事の

#### ● インフォーマル※アドボカシー

保護者や親戚、近所の方等、身近な大人が子どもアドボカシーを行います。

※インフォーマル：仕事ではない

#### ● ピアアドボカシー

友人や仲間、同じ経験を持つ人が、子どもアドボカシーを行います。

#### ● 独立アドボカシー

学校や家庭等と利害関係を持たない独立した存在であり、子どもの立場に立って気持ちや意見を聴き、子どもが望む方法で必要な支援につながります。

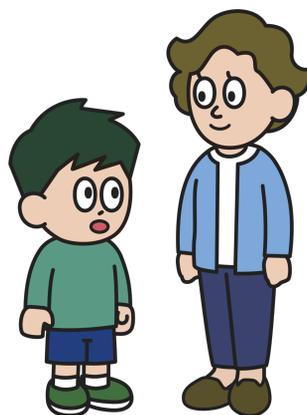
## Point !

自分がどのようなサポートが必要かを把握し、周囲に説明できるようになることは、必要な支援を自ら求め、より良い生活環境を整えることにつながります。全ての子どもが「セルフアドボカシー」を実現するために、学校は子どもの意見を尊重し、子どもが自分の思いを表現できる環境を作ることが大切です。

## 3 独立アドボケイトの役割と学校現場での有効性

### 独立アドボケイトとは？

- 相談者の立場に立って、気持ちや意見を丁寧に聴き、実現できるように支援する人で、アドボカシーを実践する専門家を「独立アドボケイト」と言います。「独立」とは、学校や保護者など誰とも関わりのない（利害関係のない）人という意味です。
- 「独立アドボケイト」は、相談者の思いを聴き、相談者がどうしたいのかを大切にしながら、どのように伝えれば良いかを一緒に考えます。相談者の希望に沿って伝えたい人に代弁することもあります。
- 相談者から聴いたことは秘密にします。
- 相談者自身やまわりの人の命に関わったり、心やからだを傷つけたりしていると判断したら、聴いた内容を必要な人に話すことがあります。その場合は、相談者にこのことを伝えます。



### 独立アドボケイトが大切にしている6つの原則

#### 1 子ども主導

支援の全ては、子どもの意思と希望に基づいて進められます。独立アドボケイトは子どもの「擁護者」として、子どもの声に基づいて行動します。

#### 2 エンパワメント

子どもが自分の権利や意見の重要性を理解し、自信を持って自分の考えを表して決定に主体的に関われるように力（エンパワメント）を高めます。

#### 3 独立性

独立アドボケイトの活動は、子どもの生活や意思決定に関わる機関（自治体、施設、学校等）から完全に独立し、利害関係を持たない立場で行われます。

#### 4 守秘

子どもから聴いた情報は、原則として厳格に秘密を守ります。ただし、子どもの生命が脅かされるなど、やむを得ない場合は子どもの安全を最優先して対応します。

#### 5 平等

年齢、性別、障がい、出自、経済状況等にかかわらず、全ての子どもがアドボカシーの支援を受ける機会を保障されます。

#### 6 子ども参画

子どもが自分の意見を自由に表明し、自分の生活に関わる意思決定に積極的に関与することを保障すること。独立アドボケイトは、子どもの声を社会に反映させる重要な役割を果たします。



「独立アドボケイト」は、先生やスクールカウンセラー等の学校関係者以外で、子どもが安心して悩みを相談できる大人として、選択肢の一つとなります。